

## ヴィアトリス製薬

# 次の5年はより品質を重視する企業文化の醸成を加速 より満足度の高い製品・サービスの展開を目指す



ファイザーのアップジョン事業部門とマイランが統合して2020年11月に設立されたヴィアトリス。日本では2023年11月に、ヴィアトリス・グループの4社がヴィアトリス製薬合同会社とヴィアトリス・ヘルスケア合同会社の2社に再編され、「ヴィアトリス」ブランドでの事業展開を進めている。また、2025年10月にはアキュリスファーマ株式会社を買収して完全子会社化している。ヴィアトリス製薬合同会社ポートフォリオビジネスユニット 事業部長の渡邊慧也氏に、2025年11月に発足5周年を迎えたヴィアトリスの現状、安定供給への取り組み、今後の方向性などについて語っていただいた。

渡邊 慧也 氏

ヴィアトリス製薬合同会社  
ポートフォリオビジネスユニット 事業部長

### ● ● ● 本年の後発品企業ランキング調査では「好感を持っている企業」5位という結果でした。この結果をどのようにお考えですか。

発足して5年の若い会社にもかかわらず、一定以上の評価を受けていることにとても感謝していますが、同時に、これで満足してはいけないと決意を新たにしています。評価理由として、「大企業だから」、「先発品も作っているから」、「取り扱い品目が多いから」が上位に挙がっていますが、とりわけ「先発品も作っているから」というのは、弊社の特異的なところだと思います。ヴィアトリスは先発品からジェネリック医薬品まで幅広い製品ポートフォリオを有し、高品質かつ多様な医薬品を提供しています。

最終的には、ヴィアトリスの製品であれば、先発品であれジェネリック医薬品であれ、高品質で安定供給も期待でき、安心して使用できると認識いただけるようになることがゴールです。しかし、残念ながら、現在のところまだそこまでには至っていません。委託先製造所における事象をきっかけに、弊社のみで供給している製品を含めて、複数の製品の安定供給に支障をきたし、ご迷惑をおかけしていることを深くお詫び申し上げます。安定供給の確保を最優先課題と位置づけ、全社一丸となっての取り組みを進めているところです。

### ● ● ● 発足5周年を迎えたヴィアトリスの現状についてお聞かせください。

ヴィアトリスでは、革新的な新薬から広範なジェネリック医薬品まで、開発パイプラインの拡充に積極的に取り組んでいます。現在、世界26カ所の自社製造所を中心に1400種類以上の医薬品を製造し、毎年約10億人の患者さんにヴィアトリスの医薬品を提供しています。

日本では、先発品、長期取扱品、オーソライズド・ジェネリック(AG)を含むジェネリック医薬品の3つの製品ポートフォリオ

を通じ、患者さん、薬剤師の先生方を含む医療従事者のニーズに合わせた医薬品を提供しています(図1)。それぞれの製品ポートフォリオで、供給、調達、品質といった各部門と連携をとり、安定供給の確保を最優先に取り組んでいます。

製品面では、患者さんのアンメットニーズを満たすために新たな治療選択肢の提供を進めています。例えば、AGとして緑内障の点眼剤(ラタノプロスト、ラタチモ<sup>\*</sup>)をラインナップに追加しました。今後もAGを拡充することにより、患者さんのニーズにお応えしていく予定です(図2)。

また、ヴィアトリスは本年10月に、精神・神経領域に注力し

図1 ヴィアトリスが日本で提供する主な製品ポートフォリオ

分類	製品名	
先発医薬品	消化器	アミティーザ、リパクレオン
	中枢神経	イフェクサーSR、ジェイゾロフト、レルパックス
	疼痛	リリカ、セレコックス
	循環器	セララ、ノルバスク、リビトール、カルデナリン
	眼科	シスタドロップス、キサラタン、ザラカム
	アレルギー/呼吸器	エピペン、ホクナリン
	泌尿器	バイアグラ
	婦人科/産婦人科	デュファストン
オーソライズド ジェネリック	アトルバスタチン、アムロジピン、ブレガバリン、セレコキシブ、ドキサツシン、エレトリプタン	
ジェネリック 医薬品	タクロリムス、シクロスボリン	

\* 発売準備中

日経BPの許可により「日経ドラッグインフォメーション」2025年12月号から抜粋したものです。  
禁無断転載©日経BP

図2 ヴィアトリスの先発医薬品とAGの品質管理体制



ているバイオ医薬品企業、アキュリスファーマ株式会社を買収し完全子会社化しました。これにより、経鼻投与型抗けいれん薬のスピジア(一般名ジアゼバム)の日本における独占開発・販売権を取得しました。本買収によって先発品においても、当社の製品ポートフォリオがさらに充実することになります。

一方で、ヴィアトリスならではの幅広い疾患領域での実績を生かし、医薬品の提供のみならず、患者さんの健康に貢献するための疾患啓発など、様々な活動を展開しています。弊社は高齢者の慢性疾患に対する幅広い製品群を有することから、複数の疾患が併存することが多い非感染性疾患(NCDs:Non-Communicable Disease)について、薬剤師、看護師、医師などの先生方に多疾患併存の病態や疾患情報についてアップデートいただくための「ヘルシーライフプログラム」というサイトを開設しました。2024年には、高血圧、心不全、緑内障などについて学ぶ、ウェブでの疾患勉強会のシリーズを全10回ほど行いましたが、それらの動画もこのサイトで公開しています。2025年7月には、多疾患併存や多職種連携をテーマとしたNCDs講演会を開催し、約1500人の薬剤師や医師の先生方にご参加いただきました。こうした取り組みは今後も続けていきたいと考えています。

#### ● ● ● 安定供給への取り組みについてお聞かせください。

先ほども申し上げましたように、供給問題の発生に伴い、薬剤師の先生方をはじめ、医療従事者の方々に多大なご迷惑・ご負担をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げます。現在、ヴィアトリスの医薬品を必要とする患者さんに製品を安定的にお届けするため、ハード面およびソフト面で様々な取り組みを進めています。

ハード面では、2022年に供給問題に対応する供給関連コールセンターを立ち上げました。従来、限定出荷や販売中止などに関する問い合わせは、MRを介していましたが、コールセンターで一手に対応する形にしたことにより、医療関係者の方々が必要な情報をより速やかに入手できるようになりました。これまで延べ3万8千件のお問い合わせをいたいでいます。

ソフト面では、品質を重視する企業文化の醸成に努めています。品質の重要性を理解し、日常業務で必要な取り組みを実践できるよう、組織横断的に文化の定着を推進しています。具体的には、社内でコンプライアンスワークを設けて、定期的

に社員教育を実施しています。コンプライアンスにはいろいろな意味合いがあり、プロモーションや社内ルールなどに対するものもありますが、品質や製造管理に対するものも含めて、いかなる部門も患者さんを最優先に考えて業務に取り組む文化の浸透を図っています。

今後も、ハード面、ソフト面両面での対応を通じて、柔軟に製品を供給できる体制を維持し、製品の品質を担保しつつ限定出荷を減らしていくたいと考えています。

#### ● ● ● ヴィアトリスが今後目指す方向性についてお聞かせください。

ヴィアトリスはまだまだ若い会社であり、進化を続ける会社です。発足5周年を迎えることができましたが、この5年間で蓄えた知見や準備してきたことを踏まえて、次の5年は新たな方向に向けて実行していくフェーズと捉えています。これまで以上に患者さん、医療従事者に貢献するために、積極的に挑戦していきたいと考えています。

①革新的な治療選択肢をお届けするための開発パイプラインの拡充、②先発品で積み重ねてきたエビデンス(有効性・安全性)に裏付けられた、AGをはじめとする幅広い製品ポートフォリオを通じての、患者さん、医療従事者のニーズに合わせた治療選択肢の提供——。

これらの取り組みをより加速し、患者さん、医療従事者のニーズに迅速に対応し、継続的に満足度の高い製品、サービスを展開できるようにしていきます。そのためには、外部環境の変化にも柔軟に対応できる企業文化の醸成を進める必要があると考えています。ヴィアトリスは、「世界中の誰もが人生のあらゆるステージでより健康に生きられるよう貢献します」というミッションを掲げています。患者さん、日本の医療へ貢献し、このミッションを実現できるよう、患者さんの声、薬剤師の先生の声に耳を傾け、迅速に対応してまいります。ぜひ、多くの方々から声をお寄せいただきたいと思います。

